

令和7年度 社会福祉法人 瀬戸市社会福祉協議会 事業計画

基本方針

近年、地域社会は急速な変化に直面しており、特に少子高齢化や人口減少、地域コミュニティの希薄化が深刻な課題となっています。かつては住民同士の助け合いによって支えられていた地域福祉も、核家族化や高齢単身世帯の増加により、従来の支援体制では十分に対応できなくなっています。また、経済的な側面からも地方財政の厳しさが増しており、行政の支援のみでは持続可能な福祉サービスの提供が難しくなっています。

このような状況の中、地域住民が安心して暮らせる環境を維持するためには、社会福祉協議会が果たす役割の重要性が一層高まっています。地域のつながりを強化し、多様な福祉ニーズに対応するためには、既存の仕組みに頼るだけでなく、新たな支援モデルの構築や、住民・企業・行政が連携した持続可能な福祉活動が求められます。そのため、社会福祉協議会としても、経営の安定化を図ることが喫緊の課題となっており、時代のニーズに即した新たな事業を計画・実行することが不可欠です。これにより、持続可能な財政基盤を確立しながら、地域福祉の充実と発展を目指します。

また、現在、世界的に持続可能な社会の構築が求められており、国連の持続可能な開発目標（SDGs）が掲げる「誰一人取り残さない、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現」は、まさに社会福祉協議会の使命と合致するものです。すべての人が安心して暮らせる地域社会を築くためには、障がい者、高齢者、子ども、生活困窮者など、支援を必要とするすべての人々が公平にサービスを受けられる仕組みを整えることが不可欠です。そのために、社会福祉協議会は、地域に根ざした包括的な支援を展開し、多様な主体と協力しながら、福祉の担い手としての責務を果たしていく必要があります。

本事業計画は、平成30年度から令和8年度までの計画期間を持つ「地域福祉計画・地域福祉活動計画」の方針に沿い、地域の実情を踏まえた具体的な取り組みを展開するものです。計画期間の終盤を迎え、計画全体の評価を行う段階となっており、これまでの成果を振り返りながら、今後の地域福祉の方向性を見据えた取り組みが求められます。本計画を通じて、当協議会がこれまで積み重ねてきた活動の足跡を示し、今後の展望を明確にすることで、地域福祉のさらなる推進を図ります。

そして、事業の実施にあたっては、地域住民をはじめ、行政、関係団体、企業など多様な主体の理解と協力が不可欠であり、広く連携を呼びかけていくことが重要です。社会全体で支え合う仕組みを構築し、持続可能な福祉の実現を目指してまいります。

こうした取り組みをより効果的に進めるため、本年度の事業計画では「地域福祉活動計画 進行管理・評価シート」を新たに導入しました。このシートの導入には、以下の3つの目的があります。第1に、本事業計画が地域福祉計画・地域福祉活動計画の方針に沿ったものとなっているかを適切に確認し、計画の実効性を高めるためです。第2に、これまでの事業の経過を整理し、今後の展望を示すことで、地域住民や関係団体に対する当協議会の活動理解を深め、より一層の協力を得やすくするためです。そして第3に、このシートを作成するプロセス自体が、職員一人ひとりの業務理解を促進し、スキルアップにつながることを期待しています。

さらに、シートの作成対象となる事業については、昨年、社会福祉協議会の活動を広く知っていただくことを目的に作成した事業紹介チラシにおいて「主な取り組み」として示した事業を中心に選定しました。加えて、地域福祉の推進を担う社会福祉協議会として、市民の皆さまに特にお伝えしたい重要な事業を抽出し、より効果的な情報発信を行うこととしました。これにより、当協議会の活動内容がより明確になり、事業への共感と支援の輪が広がることを期待しています。

本事業計画では、こうした社会的課題とSDGsの理念を踏まえ、地域の福祉力を高めるための具体的な取り組みを示し、地域全体で支え合う仕組みづくりを推進していきます。持続可能な社会の実現を目指し、すべての住民が安心して暮らせる地域づくりに貢献してまいります。

1 「よりどころ」の支援とは？

瀬戸市社会福祉協議会 地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

基本方針	2.ささえあい・つながる仕組みをつくる
重点施策	1. 誰もが集える居場所づくり
課題テーマ	居場所 地域の声かけ・見守り
事業名	わがまち『よりどころ』プロジェクト
事業種別	赤い羽根共同募金配分事業
事業概要	歩いて行くことができる身近な地域の居場所『よりどころ』に対し、看板の設置・運営に関する費用の一部助成を行う。
担当グループ	地域支援G

年度別取組内容	令和元年度 要綱制定 令和3年度 よりどころ説明会実施 令和4年度 助成金要綱の見直し ※コロナの影響による助成金返還の要件を追記 よりどころ交流会実施 令和5、6年度 よりどころ実施希望者への支援					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
よりどころ認定 (単位:件) R7.1末現在	目標値	—	—	—	60	60
	実績値	46	48	52	51	
	達成率	—	—	—	85.0%	0.0%
	年度評価	B	B	B	C	
A→着実に進捗している B→ある程度進捗している C→進捗が順調でない						
年度別評価判断 の理由	事業開始して初めてよりどころ件数が減少した。 新規認定件数はあるものの、活動継続に課題を抱えている。					

現在の課題	運営側の担い手不足から継続困難となる居場所があり、認定数の増加に繋がらない。
今後の取組方針	地域の居場所の担い手となる方の支援とフォローのため、講座等の開催などの伴走的支援を行う。居場所の様子を動画にて撮影し、広報啓発を図るなど、設置数の増加・継続につながる支援を進めていく。

今後の 事業スケジュール	R7年度	訪問時にSNS等投稿用の動画・写真を撮影しPRを図る。 担い手への伴走支援
	R8年度	
	R9年度	

2 「地区社協」への支援とは？

瀬戸市社会福祉協議会 地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

基本方針	2.ささえあい・つながる仕組みをつくる
重点施策	1. 誰もが集える居場所づくり
課題テーマ	地域の声かけ・見守り・地域での子育て
事業名	地区社協活動支援
事業種別	社会福祉協議会単独事業
事業概要	地域福祉推進のために地区社協が取り組む事業等の企画立案に向けた研修会の開催や助言及び事業費助成を行う。
担当グループ	地域支援G

年度別取組内容	昭和46年～ 地区社協視察研修会を実施 令和元年～ 企画事業助成金制度を開始					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
企画事業助成 (単位:件)	目標値	—	—	—	8	8
	実績値	2	3	4	6	
	達成率	—	—	—	75.0%	0.0%
	年度評価	B	B	B	B	
A→着実に進捗している B→ある程度進捗している C→進捗が順調でない						
年度別評価判断 の理由	各地区の地域課題に対応した事業を、各種団体等と協議し、立案をお願いしているが、社協地域担当職員の支援の働きかけ不足もあり、企画事業の立案につながらない。					

現在の課題	・共同募金を原資とした事業の為、財源確保に課題がある。 ・社協職員の伴走支援の能力の向上を図る必要がある。
今後の取組方針	・地区社協向けの研修会の開催や地区社協への相談・助言・情報提供の実施。 ・社協職員の伴走支援における資質向上のため、地域担当連絡会で各地区社協への支援内容を共有し、支援方針を検討する。

今後の 事業スケジュール	R7年度	地域担当連絡会にて支援方針を協議、とりまとめ
	R8年度	地区社協への伴走支援の継続
	R9年度	地区社協への伴走支援の継続

3 「ボランティアセンター」ってどんな活動してるの？

瀬戸市社会福祉協議会 地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

基本方針	1.気づく心とつなげる気持ちをはぐくむ
重点施策	2.地域で活躍できる支えあいの人づくり
課題テーマ	生きがい
事業名	ボランティアセンター運営
事業種別	赤い羽根共同募金配分事業
事業概要	地域住民の社会福祉に関する理解と関心を高め、ボランティア活動への住民参加の促進をはかるため、ボランティアをしたい方とボランティアをお願いしたい方をつなぐ役割をしています。
担当グループ	地域支援G

年度別取組内容	平成5年度よりボランティアセンターを運営 ボランティアセンターの活動 ・ボランティア団体・個人として登録して頂いている住民に向けてボランティア連絡会の開催 ・ボランティア登録 ・ボランティア個人・団体への部屋・印刷機・備品の貸し出し ・ボランティア講座 ・ボランティア調整 ・ボランティア保険の受付業務					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
ボランティア相談 (単位:件) R7.1末現在	目標値	—	—	—	300	330
	実績値	56	141	248	241	
	達成率	—	—	—	80.3%	0.0%
	年度評価	C	B	A	A	
A→着実に進捗している B→ある程度進捗している C→進捗が順調でない						
年度別評価判断の理由	コロナ禍でボランティア相談件数は減少傾向にあったが、コロナを経てボランティア相談も年々、増加傾向にある。また、ボランティアの裾野を広げるため、本人の特技を生かしたボランティアを紹介できるよう伴走支援を行っている。					

現在の課題	・ボランティアの担い手不足。 ・若い世代へのボランティア情報の周知不足。
今後の取組方針	・SNSを活用した広報啓発 ・社協関連事業へのボランティア募集 ・福祉教育推進校へのボランティア情報の周知 ・せとまちの活動センターとの連携

今後の事業スケジュール	R7年度	・SNSを活用した広報啓発 ・社協関連事業へのボランティア募集 ・福祉教育推進校へのボランティア情報の周知 ・市民活動センターとの連携
	R8年度	
	R9年度	

4 「地域福祉パートナーシップ事業者認定制度」を受けると事業所はどのようなメリットがあるの？

瀬戸市社会福祉協議会 地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

基本方針	2.ささえあい・つながる仕組みをつくる
重点施策	1. 誰もが集える居場所づくり
課題テーマ	居場所 地域の声かけ・見守り
事業名	地域福祉パートナーシップ事業者認定制度
事業種別	社会福祉協議会単独事業
事業概要	民間事業者等が地域貢献として取り組む活動と、地域に顕在する身近な福祉課題等とのマッチングを通じ、地域福祉パートナーシップ事業者として連携・協働の関係を構築し、地域福祉の推進へとつなげる。
担当グループ	地域支援G

年度別取組内容	令和4年5月 要綱作成 開始 令和5年6月 認定事業者交流会を実施 令和6年4月 要綱見直し(継続時の更新申請の省略)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
地域福祉 パートナーシップ認定 (単位:事業者) R7.1末現在	目標値	—	—	—	15	20
	実績値	—	5	10	13	
	達成率	—	—	—	86.7%	0.0%
	年度評価	—	A	A	A	
A→着実に進捗している B→ある程度進捗している C→進捗が順調でない						
年度別評価判断 の理由	年々、協力企業数は伸びており、企業の力を借りる事で、地域向け講座や健康教室、地域の居場所の拡大につながっている。					

現在の課題	・個々の企業の強みを生かした地域貢献活動を認定できるよう、地域福祉パートナーシップの幅広い活動を企業に周知が図れていない。
今後の取組方針	・企業に地域貢献活動の内容を紹介するマニュアル等の作成を行い、企業に向けての働きかけを継続的に行っていく。 ・企業同士の情報交換会を実施し、地域貢献活動のノウハウを広げていく。

今後の 事業スケジュール	R7年度	企業同士の情報交換会の実施
	R8年度	企業の取り組みを紹介する事例集等(冊子)の作成
	R9年度	冊子を活用した企業への周知

5 「福祉実践教室」はどこで何をしているの？

瀬戸市社会福祉協議会 地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

基本方針	1.気づく心とつなげる気持ちをはぐくむ
重点施策	4.支えあいの心をはぐくむ環境づくり
課題テーマ	知る・学ぶ機会
事業名	福祉実践教室
事業種別	赤い羽根共同募金配分事業
事業概要	児童・生徒の皆さんを対象に、障がい者の方からお話を聞いたり、点字・手話・車いすなどの体験学習をすることにより、「障がい」とはなにか？すべての人々がともに生きていくことはどんなことなのか？を考えていただくために開催している。
担当グループ	地域支援G

年度別取組内容	令和4年度 従来課題であった実践教室講師の講師料の引き上げのため見直しを実施 愛知県社協の助成金の活用スタート 令和5年度 実践教室サポーター養成講座 開催 車いす・高齢者疑似体験科目のサポーターを養成					
指標名		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
実践教室の実施 (単位:回)	目標値	—	—	—	80	80
	実績値	57	78	80	74	
	達成率	—	—	—	92.5%	0.0%
	年度評価	B	A	A	A	
A→着実に進捗している B→ある程度進捗している C→進捗が順調でない						
年度別評価判断の理由	コロナ禍で一時期、実施回数は減少したものの、福祉教育推進校事業で取り組み内容として紹介したこともあり、学校数が減る中、開催数が維持できている。					

現在の課題	講師・ボランティアの高齢化により、継続実施に向け、人材の養成・開拓。
今後の取組方針	実践教室のサポーターである講師・ボランティアを努める障がい当事者の方の募集・養成を行っていく。

今後の事業スケジュール	R7年度	講師・ボランティア募集の動画・チラシを作成する。
	R8年度	講師ボランティアの募集、科目の統合・新設を検討する。
	R9年度	講師ボランティアの募集、科目の統合・新設を検討する。

6 「福祉教育推進校」ってどこの学校？それ以外の学校との違いは？

瀬戸市社会福祉協議会 地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

基本方針	1.気づく心とつなげる気持ちをはぐくむ
重点施策	4.支えあいの心をはぐくむ環境づくり
課題テーマ	知る・学ぶ機会
事業名	瀬戸市福祉教育推進校事業 ～未来へつなぐ 心 を育てるせとつち 種まき プロジェクト
事業種別	赤い羽根共同募金配分事業
事業概要	市内の小学校、中学校及び高等学校等の児童・生徒に対して社会福祉に関する実践活動等の機会を確保するため、2年を期間として7校を委嘱し、助成金を配分し、社会福祉への理解と関心を高めるとともに、思いやりと助けあいの心を育むための取り組みを実施していただく。(助成金額:小学校40,000円または、50,000円 中学校、高等学校等40,000円)
担当グループ	地域支援G

年度別取組内容	令和4年度 ・実施要綱の見直し【内容】 委嘱期間 3年→2年、委嘱校 6校 → 7校(小学校5校 中学校1校 高等学校1校)、助成金額の見直し ・学校に向けた事業の手引きの作成 ・委嘱学校への説明 ・市役所(学校教育課との打合) 令和5年度 7校の委嘱(陶原小・效範小・水野小・にじの丘小・瀬SOLAN小・水野中・瀬戸高校) 令和6年度 各推進校が実施した内容を学校教育課・各学校に情報提供、令和7年度推進校への説明					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
推進校の委嘱 (単位:校)	目標値	—	—	—	7	7
	実績値	4	2	7	7	
	達成率	—	—	—	100.0%	0.0%
	年度評価	A	A	A	A	
A→着実に進捗している B→ある程度進捗している C→進捗が順調でない						
年度別評価判断 の理由	当初予定した計画通り、各学校への周知を行い、実施ができています。					

現在の課題	学校や生徒への事業の周知
今後の取組方針	財源である 赤い羽根共同募金の使い道としても広報等で周知を図り、社会福祉協議会の喫緊の課題として抱えている若年層の会員募集・共同募金への協力等につながるよう進めていく。

今後の 事業スケジュール	R7年度	新たな推進校の委嘱
	R8年度	継続実施、新たな推進校への委嘱説明
	R9年度	新たな推進校の委嘱

7 「災害ボランティアセンター」の体制整備とは？

瀬戸市社会福祉協議会 地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

基本方針	2.ささえあい・つながる仕組みをつくる
重点施策	2. 地域で活躍できる支えあいの人づくり
課題テーマ	災害
事業名	災害ボランティアセンター運営
事業種別	赤い羽根共同募金配分事業
事業概要	ボランティアと地域住民のニーズを結びつける役割を持つ災害ボランティアコーディネーターの養成をはじめ、災害ボランティアセンターの実践的な立ち上げ訓練等を通じて、市や地域の各団体との連携を強化・推進する。
担当グループ	地域支援G

年度別取組内容	平成22年度～ 災害ボランティアコーディネーター養成講座毎年実施する。 平成29年度～ 立ち上げ訓練 毎年実施。 令和 6年度 珠洲市災害ボランティアセンターへの応援派遣 職員2名 珠洲市へ災害ボランティアバスを運行。 (瀬戸市として初めて実施)19名参加					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
災害ボランティア コーディネーター 登録者 (単位:人)	目標値	—	—	—	175	190
	実績値	129	148	160	178	
	達成率	—	—	—	101.7%	0.0%
	年度評価	A	A	A	A	
A→着実に進捗している B→ある程度進捗している C→進捗が順調でない						
年度別評価判断 の理由	災害ボランティアコーディネーターの講座受講者は、年々増加傾向にある。					

現在の課題	近年各地で災害が多く発生しており、災害ボランティアセンターの必要性が増しているため、災害ボランティアセンターに関する業務が増えている。
今後の取組方針	災害ボランティアセンターの周知・啓発と合わせて行政関係課(社会福祉課・危機管理課)と連携し、担い手の確保を進めるとともに、事業費の確保に努める。

今後の 事業スケジュール	R7年度	行政関係課(社会福祉課・危機管理課)と協議 災害ボランティアコーディネーター養成講座・立ち上げ訓練の 継続実施
	R8年度	協議結果を基に、今後の進め方を計画、行政と協議 災害ボランティアコーディネーター養成講座・立ち上げ訓練の 継続実施
	R9年度	行政関係課(社会福祉課・危機管理課)と継続協議 災害ボランティアコーディネーター養成講座・立ち上げ訓練の 継続実施

8 「社協会員」になるとどんなメリットがあるの？

瀬戸市社会福祉協議会 地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

基本方針	3.地域福祉推進のための環境づくり
重点施策	4.支えあいの心をはぐくむ環境づくり
課題テーマ	知る・学ぶ機会
事業名	会員募集
事業種別	社会福祉協議会単独事業
事業概要	高齢者や障がい者をはじめ、全ての地域住民にとって住みよくするための地域福祉活動のための財源として、本会の事業や活動に賛同いただける一般、法人、施設の皆様から会費を納めていただく。 会費は、主に地域福祉活動を実施している団体への助成に活用する。
担当グループ	総務G

年度別取組内容	募集方法 一般会員：5月頃、主に自治会を通じて地域住民へ戸別に加入を依頼。 法人会員：6月頃、主に郵送により加入を依頼。 施設会員：6月頃、郵送により加入を依頼。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
一般会員 (単位:件)	目標値	9,320	8,744	8,094	7,844	7,062
	実績値	8,744	8,094	7,844	7,062	
	達成率	93.8%	92.6%	96.9%	90.0%	0.0%
	年度評価	C	C	C	C	
法人会員 (単位:件) R7.1末現在	目標値	169	263	265	280	330
	実績値	253	254	267	318	
	達成率	149.7%	96.6%	100.8%	113.6%	0.0%
	年度評価	A	B	A	A	
施設会員 (単位:件)	目標値	21	20	20	20	20
	実績値	20	20	20	20	
	達成率	95.2%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
	年度評価	B	B	B	B	
A→着実に進捗している B→ある程度進捗している C→進捗が順調でない						
年度別評価判断の理由	一般会員は減少傾向に歯止めをかけられていない。 法人会員は新規依頼の取り組みにより増加傾向となっている。 施設会員は現状維持をできている。					

現在の課題	一般会員減少の要因として、自治会を通じて依頼しているなか、自治会加入率が下がっていることや、自治会の戸別の集金活動に対する負担感が増していることなどが挙げられる。 また、地域を住みよくする事業に参画していただくため会員制となっているものの、会員加入による直接的な還元やメリットとなるものは現状は無いことも、会員加入に至らない要因として挙げられている。
今後の取組方針	一般会費の納入方法について、現金のみの集金・納入に限らず、多様な集金・納入方法を取り入れる。 また、これまで無かった一般会員となられた地域住民に対して、メリットとなるようなサービス等提供の実施についても模索していく。

今後の事業スケジュール	R7年度	多様な集金・納入方法の調査検討
	R8年度	検討した内容について試行的に実施
	R9年度	試行実施結果を受けて本格的に実施

9 「共同募金運動」のお金で瀬戸市は何をやってるの？

瀬戸市社会福祉協議会 地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

基本方針	3.地域福祉推進のための環境づくり
重点施策	4.支えあいの心をはぐくむ環境づくり
課題テーマ	知る・学ぶ機会
事業名	共同募金配分事業
事業種別	共同募金配分事業
事業概要	福祉関係団体や地域の居場所「よりどころ」などへの助成金交付のほか、福祉に関する広報啓発活動等により、障がいの有無や年齢等によらず全ての方に住みやすい地域となるための取り組みを通じて地域福祉の推進を図る。
担当グループ	総務G

年度別取組内容	助成先 R3:福祉団体 9団体、よりどころ 11か所、地区社協 2件 R4:福祉団体 10団体、よりどころ 16か所、地区社協 3件 R5:福祉団体 10団体、よりどころ 23か所、地区社協 4件 R6:福祉団体 10団体、よりどころ 29か所、地区社協 6件					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
福祉団体助成金額 (単位:円)	目標値	-	-	-	-	-
	実績値	650,000	675,000	657,591	660,000	
	達成率	-	-	-	-	-
	年度評価	B	B	B	B	
よりどころ助成金額 (単位:円)	目標値	-	-	-	-	-
	実績値	155,000	211,000	302,500	398,000	
	達成率	-	-	-	-	-
	年度評価	A	A	A	A	
地区社協企画事業 助成金額 (単位:円)	目標値	-	-	-	-	-
	実績値	88,563	95,264	182,466	279,263	
	達成率	-	-	-	-	-
	年度評価	B	B	A	A	
A→着実に進捗している B→ある程度進捗している C→進捗が順調でない						
年度別評価判断 の理由	本会が重点として取り組んでいる、「よりどころ」及び地区社協企画事業の推進について、件数や助成金額は増加傾向にあり、必要な支援はできている。					

現在の課題	共同募金実績が減少傾向にあり社協への配分も減少するなか、これまで同様に福祉団体の運営費・事業費に助成していくことは困難であり、見直しの必要性に迫られている。
今後の取組方針	福祉団体への助成の在り方について見直しを図る。

今後の 事業スケジュール	R7年度	福祉団体への助成について検討及び福祉団体への周知。
	R8年度	新たな助成内容での実施。
	R9年度	継続実施。

10 人材育成や働き方改革には取り組んでいるの？

瀬戸市社会福祉協議会 地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

基本方針	3.地域福祉推進のための環境づくり
重点施策	4.支えあいの心をはぐくむ環境づくり
課題テーマ	金銭面の不安
事業名	人材育成、働き方改革
事業種別	社会福祉協議会単独事業
事業概要	地域福祉の中核的存在として成長し続けるための人材育成を目指します。 働き方改革により、個々の事情にあった多様なワーク・ライフ・バランスの実現を目指します。
担当グループ	総務G

年度別取組内容	人材育成…多岐にわたる役割を果たす資質を備えた職員像を目指し、人材育成計画を策定し必要な研修を実施します。 働き方改革…フレックスタイム制の導入など柔軟な働き方に向けて調査研究を行い、就業規則の必要な整備を進めていきます。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
時間外労働時間 有休休暇取得率	目標値	-	-	-	-	-
	実績値	-	-	-	-	-
	達成率	-	-	-	-	-
	年度評価	-	-	-	-	-
A→着実に進捗している B→ある程度進捗している C→進捗が順調でない						
年度別評価判断 の理由						

現在の課題	人材育成及び働き方改革への継続的な取り組みがなされていない。
今後の取組方針	計画的継続的に人材育成及び働き方改革を実施していく。

今後の 事業スケジュール	R7年度	人材育成計画の策定、フレックスタイム制の調査研究、就業規則の整備
	R8年度	人材育成計画に基づく研修の実施、フレックスタイム制の導入
	R9年度	人材育成計画に基づく研修の実施、フレックスタイム制の導入

11 「地域担当制」は、地域にどこまで伴走しているの？

瀬戸市社会福祉協議会 地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

基本方針	3.地域福祉推進のための環境づくり
重点施策	2.地域で活躍できる支えあいの人づくり
課題テーマ	担い手
事業名	地域担当制
事業種別	社会福祉協議会単独事業
事業概要	地域の実情について、地域住民や地縁組織、各種団体等からの相談に応じるとともに情報収集を図り、解決すべき課題を抽出し、地域にあった課題解決方法を一緒に検討する。
担当グループ	地域支援G

年度別取組内容	地区社協をはじめとする各種団体等からの相談対応及び課題解決にむけた事業立案に対する助言を行うことで、地域の担い手のサポート及び発掘、育成につなげていきます。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
地区社協企画事業 及び他団体の 新規事業立案・実施 (単位:件) R6.12末現在	目標値	-	-	-	-	8
	実績値	2	3	4	6	
	達成率	-	-	-	-	0.0%
	年度評価	C	C	B	B	
A→着実に進捗している B→ある程度進捗している C→進捗が順調でない						
年度別評価判断 の理由	19地区社協のうち約3割の地区社協が企画事業立案、実施となった。企画事業申請数もR3,R4と比較し数的には増加したことは一定の評価ができると考える。					

現在の課題	企画事業数の増加傾向はあるものの同一地区社協の申請が続く傾向もある。地域担当が密に関わる組織は新規事業につながっている傾向もあり、職員ごとの対応に偏りがある。
今後の取組方針	地区社協をはじめとする地域の各種団体等とのコミュニケーションを深め、相談対応、解決すべき課題の抽出及び解決方法を協働で検討していきます。

今後の 事業スケジュール	R7年度	地区社協会議等への参加及び各種団体まわりから地域の課題を抽出する。
	R8年度	地域課題を抽出し、地域での事業展開に向けた協議、提案(地域福祉活動計画策定を見据えて)
	R9年度	地域での事業展開における伴走支援の実施(地域福祉活動計画に基づくアクション)

12 「これからの社協経営」って考えているの？

瀬戸市社会福祉協議会 地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

基本方針	3.地域福祉推進のための環境づくり
重点施策	2.地域で活躍できる支えあいの人づくり
課題テーマ	金銭面の不安
事業名	経営の安定化
事業種別	社会福祉協議会単独事業
事業概要	平成29年に社会福祉法人制度改革に伴う定款等の改正及び新会計基準の適用により退職給付引当金が必須化され、平成28年度決算から運用資金積立金及び前期末支払資金残高を減額し、退職給付積立資産57,145,776円を計上しました。そのため、当期末支払資金残高が平成27年度決算時の65,875,095円から35,282,819円減額し、平成28年度決算では30,592,277円となり、運営に支障をきたす可能性が出てきました。その後、令和元年決算で当期末支払資金残高が13,941,937円まで減り運転資金が不足したため、令和2年度決算より福祉基金の一部の52,000,000円を取り崩し運転資金に充当しました。令和5年度決算の実質的当期末支払資金残高は27,435,537円まで回復しましたが、近年の人件費の増加や退職金の確保手段などの問題の解決には至らず、中長期の経営見通しを立てることが困難な状況です。まずは、運転資金である実質的当期末支払資金残高を、経営安定の目安となる年間事業費の3ヶ月分を確保することを目指します。
担当グループ	総務G

年度別取組内容	平成28年度・平成29年度…社会福祉法人制度改革に伴う定款等の改正及び新会計基準が適用され退職給付引当金の必須化により、運用資金積立金及び前期末支払資金残高を減額し退職給付積立資産57,145,776円を計上 平成29年度…第1層生活支援コーディネーター配置業務の受託 平成30年度…第2層生活支援コーディネーター配置業務の受託、やすらぎヘルパーステーション廃止 令和元年度…マスコットキャラクターせとつちを作成し、広報啓発活動を強化 令和2年度…福祉基金の一部の52,000,000円を取り崩し運転資金に充当 令和3年度…緊急生活支援事業及び生活福祉資金特例貸付事業の受託 令和4年度…障がい者相談支援センターの受託 令和5年度…グループウェアの導入などによる業務効率化の推進 令和6年度…瀬戸市補助金の増額					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
目標値：事業活動支出の3か月分 実績値：実質的当期末支払資金残高 (当期末支払資金残高-52,000,000円)	目標値	72,452,445	75,614,621	71,532,746	73,678,728	75,889,090
	実績値	26,301,251	24,878,095	27,435,537	-	
	達成率	36.3%	32.9%	38.4%	-	0.0%
	年度評価	C	C	B	-	
A→着実に進捗している B→ある程度進捗している C→進捗が順調でない						
年度別評価判断の理由	正規職員の減員、生活福祉資金貸付事業受託金の増額及びやすらぎ障害者相談支援センターの受託などにより、令和5年度決算の実質的当期末支払資金残高が27,435,537円まで回復したため。					

12 「これからの社協経営」って考えているの？

現在の課題	人件費の増加への対応や退職金の確保手段が不透明 会費、共同募金の減少 市役所との連携不足、社協の意義について伝達不足 地域住民への周知不足
今後の取組方針	自主財源確保のための事業の実施 不採算事業の見直し 補助金等を確保するための組織の見直し

今後の 事業スケジュール	R7年度	自主財源の確保を模索し、組織改編により人件費支出の最適化を図る。令和8年度からの福祉保健センター指定管理者の受託に向け取り組む。瀬戸市補助金及び受託事業などの適切な人件費等を要求し、事業の整理を行う。
	R8年度	事業を見直し、自主財源の確保と機能強化を図る。
	R9年度	事業を見直し、自主財源の確保と機能強化を図る。

13 「社協内のDX化」は進んでいるの？

瀬戸市社会福祉協議会 地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

基本方針	3.地域福祉推進のための環境づくり
重点施策	2.地域で活躍できる支えあいの人づくり
課題テーマ	コミュニケーション
事業名	業務効率の向上
事業種別	社会福祉協議会単独事業
事業概要	DX化のツールであるグループウェア及びタイムレコーダーの有効活用を進めることで、業務効率を向上させる仕組みの改善を図ります。
担当グループ	総務G

年度別取組内容	令和4年度…インターネット環境の再整備 令和5年度…グループウェアの導入 令和6年度…タイムレコーダーの導入					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
DX化ツールの活用数	目標値	-	-	-	-	-
	実績値	-	-	-	-	-
	達成率	-	-	-	-	-
	年度評価	-	-	-	-	-
A→着実に進捗している B→ある程度進捗している C→進捗が順調でない						
年度別評価判断の理由						

現在の課題	働き方改革を見据えたDX化がなされていない
今後の取組方針	グループウェア及びタイムレコーダーの有効活用を進めるための研修を進め、文書管理、情報共有、電子決裁及び勤怠管理等の再確認と試行を実施し、ペーパーレスや業務効率の向上を図ります。 働き方改革を見据えたDX化の推進

今後の事業スケジュール	R7年度	文書管理、情報共有、電子決裁及び勤怠管理等の再確認と試行
	R8年度	文書管理、情報共有、電子決裁及び勤怠管理等の利用拡大
	R9年度	文書管理、情報共有、電子決裁及び勤怠管理等の利用拡大

14 「生活支援コーディネーター」って、どんな活動しているの？

瀬戸市社会福祉協議会 地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

基本方針	3.地域福祉推進のための環境づくり
重点施策	1.誰もが集える居場所づくり
課題テーマ	居場所
事業名	生活支援コーディネーター配置
事業種別	国・県・市委託事業
事業概要	「高齢者が生きがいを持って安心して暮らせる社会の実現に向けて」高齢者を支える地域づくりの推進を図ることを目的として事業展開を行う。
担当グループ	地域支援G

年度別取組内容	地域の居場所「よりどころ」の周知・啓発・設置拡大 令和3年度 よりどころ説明会実施 令和4年度 よりどころ交流会実施 令和5・6年度 よりどころ実施希望者への声掛け・支援 令和5・6年度 地域の居場所を掲載した社会資源一覧の作成					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
よりどころ新規認定 (単位:件) R7.1末現在	目標値	-	-	-	7	7
	実績値	2	3	6	7	
	達成率	-	-	-	-	0.0%
	年度評価	C	C	A	A	
A→着実に進捗している B→ある程度進捗している C→進捗が順調でない						
年度別評価判断の理由	令和5年5月新型コロナウイルス感染症が5類へ移行され、令和6年度は地域活動が平時に戻り、地域の居場所に対する地域ニーズが増え、新規設置数の増加率が向上した。					

現在の課題	地域の居場所は地縁組織等も設置しており、お互いの情報共有が不十分で有機的連携につながっていないため、居場所に関する情報が分断されている。
今後の取組方針	他の関係団体や地縁組織とのつながりを深め、情報共有を行う。 地域の居場所設置拡大及び居場所運営の課題を共有し、設置されている居場所の継続運営に向けた支援を行う。設置拡大に向けて企業との連携も深めていく。

今後の事業スケジュール	R7年度	地域の居場所「よりどころ」の周知、設置拡大、運営継続支援の実施
	R8年度	居場所運営から見えた新たな運営や地域課題の解決に向けた検討の実施
	R9年度	居場所運営実施の他団体、地縁組織、企業との協議体設置

15 「日本赤十字社瀬戸市地区」業務って何してるの？

瀬戸市社会福祉協議会 地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

基本方針	3.地域福祉推進のための環境づくり
重点施策	3.相談できる・つながる仕組みづくり
課題テーマ	災害
事業名	日本赤十字社愛知県支部瀬戸市地区
事業種別	その他
事業概要	地区は、主に市単位で設置されており、日本赤十字社愛知県支部と連携した会費・寄付金の募集、義援金・救援金の受付、日本赤十字社が展開する災害救援活動の支援や救援物資の保管・管理、地域ボランティアや青少年赤十字加盟校の育成援助など日本赤十字社の事業を推進する。
担当グループ	総務G

年度別取組内容	活動資金の募集のため、5月頃に自治連合会の定例会にて募集の協力依頼を行うほか、各連区の定例会に赴き、募集趣旨・方法について説明を行う。 災害などで被害を受けた世帯に対し、社会福祉課や消防本部と情報共有のうえ、災害見舞金及び物資を支給する。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
活動資金の募集額 (単位:円) R6.12末現在	目標値	9,575,000	9,508,000	9,385,000	9,338,000	9,299,000
	実績値	7,695,869	7,776,267	7,170,143	6,137,422	
	達成率	80.4%	81.8%	76.4%	65.7%	0.0%
	年度評価	C	C	C	C	
災害見舞金及び 物資の支給 (単位:件) R6.12末現在	目標値	-	-	-	-	-
	実績値	3	7	1	3	
	達成率	-	-	-	-	-
	年度評価	B	B	B	B	
A→着実に進捗している B→ある程度進捗している C→進捗が順調でない						
年度別評価判断 の理由	活動資金の募集は年々減少しており、愛知県支部から自治体規模に応じた示される目標値に大きく達していない。 愛知県内37市町村募集目標達成率:R3 95.4%、R4 94.5%、R5 89.7%					

現在の課題	活動資金の募集:自治会加入率の減少、社会情勢の悪化(コロナや物価高)により、募集実績が減少傾向。自治会を通じた活動資金の募集について、地域住民から負担感の声が出ており、募集方法について見直しを迫られている。 災害見舞金及び物資の支給:見舞金の支給額や対象基準は長年変えておらず、適正かどうかの検討がなされていない。 その他:地区業務は通常自治体が担うこととなっており、他団体が行う場合は受委託契約などを締結する必要があると愛知県支部からの話はあるものの、自治体との話し合いができていない。
今後の取組方針	活動資金の募集については、募集方法の多様化について検討していく。 災害見舞金については、他市町の状況を踏まえ必要に応じて見直しを図っていく。 瀬戸市地区の事務局の在り方について、自治体と協議していく。

今後の 事業スケジュール	R7年度	他市町の状況を調査し、瀬戸市における取組を検討。
	R8年度	検討内容について、具体的に進める。
	R9年度	本格的に実施。

16 たくさんの「寄付」を受けているけど、何に役立ててるの？

瀬戸市社会福祉協議会 地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

基本方針	3.地域福祉推進のための環境づくり
重点施策	4.支えあいの心をはぐくむ環境づくり
課題テーマ	生きがい
事業名	寄付
事業種別	その他
事業概要	福祉のために役立てて欲しいというお気持ちを寄付金及び寄付物品というかたちで受け付け、本会の実施する社会福祉事業へ還元するもの。
担当グループ	総務G

年度別取組内容	【寄付件数】 R3…33件、R4…38件、R5…40件、R6…35件 寄付を受けたことについて、広報紙にて報告として掲載するほか、報道機関に情報提供している。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
寄付金額 (単位:円) R7.1末現在	目標値	-	-	-	-	-
	実績値	4,334,218	4,752,687	1,590,668	3,181,346	
	達成率	-	-	-	-	-
	年度評価	B	B	B	B	
A→着実に進捗している B→ある程度進捗している C→進捗が順調でない						
年度別評価判断の理由	寄付者の意向によるところが大きいため、目標値を定めることは難しく、年度によるばらつきが大きくなっている。					

現在の課題	寄付については、目標を立てたり、広く募ったりしたことがないが、寄付金額が増額することは、福祉や本会事業に対する理解に繋がり、更に寄付文化を醸成することは地域福祉推進にも繋がることから、積極的に取り組む必要があるものの、現状は寄付いただいている方の多くは毎年同じ方であり、新たな寄付者の開拓には繋がっていないことから、社協の発信力を強化する必要がある。 また、合わせて時代のニーズに応じて寄付手段の多様化を図る必要がある。
今後の取組方針	寄付について、様々な広報ツールを用いて発信し募っていく。 また、寄付手段の多様化として、キャッシュレス決済の導入やクラウドファンディング、寄付付き商品事業の展開など、様々な方法について検討していく。

今後の事業スケジュール	R7年度	寄付手段の多様化として具体的な方法の検討。
	R8年度	検討内容について具体的に調整。
	R9年度	本格的に実施。

17 社会福祉協議会を広く理解してもらうための「広報活動」って？

瀬戸市社会福祉協議会 地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

基本方針	3.地域福祉推進のための環境づくり
重点施策	4.支えあいの心をはぐくむ環境づくり
課題テーマ	コミュニケーション
事業名	広報活動
事業種別	共同募金配分事業
事業概要	本会の活動内容を広く発信することで、信頼性や認知度を高める。
担当グループ	総務G

年度別取組内容	R4…Instagram開設。 R5…社協HPの仕様変更・更新（携帯からの閲覧を考慮するため） R6…ローカル試験的導入。					
指標名		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
Instagram投稿 （単位：件） R6.12末現在	目標値	-	-	-	-	180
	実績値	-	63	152	135	
	達成率	-	-	-	-	-
	年度評価	-	A	A	B	
A→着実に進捗している B→ある程度進捗している C→進捗が順調でない						
年度別評価判断 の理由	社協の取り組みをSNSを通じた発信により、普段社協と馴染みのない地域住民にも目に触れてもらうことができ、福祉に対する理解や本会の認知度を高めるうえでは一定の効果を得られている。					

現在の課題	広く地域住民に情報発信するうえで、広報紙は重要な位置づけではあるものの、財源となる共同募金実績の減少や資材高騰により、発行の見直しが必然となっている。 また、情報発信する必要性もあるが、地域住民が知りたい情報が何かを把握するための取り組みが必要である。 また、子育て世帯や働き世代に今後より地域づくりに参画してもらう必要があることから、そういった対象へのアプローチ方法を検討していく必要がある。
今後の取組方針	本会の活動を広く知ってもらうための正しい情報を発信し、福祉への理解・参画を促進するにあたり、市民や企業との効果的なコミュニケーションツールとして、SNSを積極的に活用する。

今後の 事業スケジュール	R7年度	より効果的な発信及びコミュニケーション方法を模索する。
	R8年度	試験的に導入。
	R9年度	本格的に実施。

18 「認知症」関連の事業は、何を目標に、どんなことしているの？

瀬戸市社会福祉協議会 地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

基本方針	2.ささえあい・つながる仕組みをつくる
重点施策	2.地域で活躍できる支えあいの人づくり
課題テーマ	担い手
事業名	認知症総合支援事業
事業種別	国・県・市委託事業
事業概要	認知症を含む高齢者が安心できる地域づくりを進めるため、地域や事業所に対して、認知症に対する知識の普及啓発に取り組み、地域全体で認知症高齢者や家族を支える環境づくりを目指します。
担当グループ	相談・介護G

年度別取組内容	認知症サポーターの養成及び地域活動支援等 ①地域で出張！せとらカフェを開催し、認知症に対する正しい理解(新しい認知症観)の促進を図る。 ②認知症サポーター養成講座修了者を対象としたステップアップ研修を開催し、地域で生活する認知症の方等の支えるオレンジサポーターを養成する。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
出張！せとらカフェ 参加者 (単位:人) R6.12末現在	目標値	-	-	-	230	230
	実績値	-	214	294	102	
	達成率	-	-	-	44.3%	0.0%
	年度評価	-	B	A	C	
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
オレンジサポーター 登録者 (単位:人)	目標値	-	-	-	12	12
	実績値	14	35	9	11	
	達成率	-	-	-	91.7%	0.0%
	年度評価	B	A	B	A	
A→着実に進捗している B→ある程度進捗している C→進捗が順調でない						
年度別評価判断の理由	①に関しては前年度と比較しても大幅な参加者数減少となっている。過去2年間で概ね地域を一巡した影響が出ている可能性がある。 ②に関しては概ね予定通りの新規登録者数となり順調に進んでいると考ええる。					

現在の課題	当事者も地域住民も旧来の(ネガティブ思考の)認知症観が根強く定着しており、社会参加、地域支援につながらない。「新しい認知症観」の理解促進が事業概要にも記載した目的達成に向けて第1に必要な点である。
今後の取組方針	・出張！せとらカフェ及び認知症サポーターステップアップ研修で「新たな認知症観」の理解促進につながるプログラムを組み入れて実施していく。

今後の事業スケジュール	R7年度	出張！せとらカフェ及び認知症サポーターステップアップ研修の実施(内容の充実)
	R8年度	オレンジサポーターの地域活動への展開
	R9年度	オレンジサポーターの自主活動への広がりサポート

19 社会福祉協議会で「子育て支援事業」ってやってるの？

瀬戸市社会福祉協議会 地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

基本方針	1.気づく心とつなげる気持ちをはぐくむ
重点施策	1.誰もが集える居場所づくり
課題テーマ	地域の声かけ・見守り 地域の子育て
事業名	子育て支援事業
事業種別	国・県・市委託事業
事業概要	子育て中の親子の集える場の提供、子育てに関する相談窓口としてプレイルームを瀬戸市から受託を受け実施している。また、地区社協役員やボランティアの協力の元、子育てサロン・おもちゃ図書館を実施し、住民で支える子育て支援を展開している。
担当グループ	事業G

年度別取組内容	・プレイルーム事業 通年を通して、育児サロン、育児相談、関係機関との連携を実施した。 ・育児講座…人気の講座を継続、託児についてはアンケートから親子に切り替える講座もあった。 「ベビママあつまれ〜♪」「みんなであそぼ」「ベビーマッサージ」「ゆがみりセットうんどろ」「新聞紙あそび」「親子ヨガ」「うんどろあそび」「作ってあそぼ」「陶芸」 ・小学生講座…ボランティア団体との協力により小学生を対象とした講座を開催した。 「マジック」「陶芸」「ポッチャ交流」 ・おもちゃ図書館 第1～第3土曜日におもちゃを通して親子で楽しく遊ぶ支援を行った。 ・子育てサロン 市内10か所で開催される地区社協が主催する子育てサロンの開催状況を把握し、情報共有を図った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
プレイルーム 育児サロン 延べ参加者 (単位:人)	目標値	-	-	-	-	15,000
	実績値	3,403	6,440	11,285	12,600	
	達成率	-	-	-	-	0.0%
	年度評価	-	-	-	B	
A→着実に進捗している B→ある程度進捗している C→進捗が順調でない						
年度別評価判断の理由	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止以降、利用制限や事前予約などによる利用が継続した。その間、利用する世代の交代や、母親の復職率の増加や幼稚園のお試し入園の利用などがあり、プレイルームを利用する月齢は低年齢化の傾向にある。 プレイルーム事業の運営や地域の子育て支援事業など、利用月齢にあわせた事業内容の見直しの必要がある。					

現在の課題	社協としての子育て支援事業の方針等が確立されていない
今後の取組方針	・専門家の力を借りながら社協が行う子育て支援のあり方を明確にする ・時代や住民のニーズにあった講座等の開催 ・子育てに関心のあるボランティアの養成・確保 ・地区社協等の紹介・地域に相談できる人を作る働きかけ

今後の事業スケジュール	R7年度	子育て支援方針の作成
	R8年度	事業内容の見直し
	R9年度	事業内容の見直し

20 社会福祉協議会は、「生活困窮者」に対してどのような支援をしているの？

瀬戸市社会福祉協議会 地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

基本方針	2.ささえあい・つながる仕組みをつくる
重点施策	3.相談できる・つながる仕組みづくり
課題テーマ	金銭面の不安
事業名	資金貸付事業
事業種別	国・県・市委託事業
事業概要	低所得者世帯等に対し、資金の貸付と必要な相談支援を通じ、その経済的自立及び生活意欲の助長促進並びに在宅福祉及び社会参加の促進を図る、生活福祉資金貸付を実施する。 また、相談者の状況に応じて、法外援護として、自主財源を原資に2万円を上限に小口融資を実施する。 対象者の支援にあたっては、生活困窮者窓口やハローワークとの連携を推進し、どこに相談しても繋がる仕組みをつくる。
担当グループ	総務G

年度別取組内容	～R4.9:コロナ特例貸付の申請受付終了 R5～:コロナ特例貸付の借受人に対するフォローアップ支援 R6:新型コロナ特例貸付を借りた方で、償還完了していない方に対し、生活状況確認の調査を郵送により実施する。また調査シートと合わせて相談窓口に関するチラシを同封し、気軽に相談できるよう努める。 生活困窮者の食料支援を実施しているNPO法人エムトゥエムと連携し、相談者の状況に応じて食料支援へと繋ぐ取り組みを行うのと併せて、地域住民などから食料を募るフードドライブポストを実施し、集まったものを同法人に届ける取り組みを実施する。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
延べ相談援助 (単位:件) R6.12末現在	目標値	-	-	-	-	-
	実績値	3,808	1,776	701	556	
	達成率	-	-	-	-	-
	年度評価	B	B	B	B	
A→着実に進捗している B→ある程度進捗している C→進捗が順調でない						
年度別評価判断の理由	特例貸付借受人に対するフォローアップ支援について、対象となる件数が多いことや新規の貸付相談が増加傾向にあることから、積極的なアウトリーチによる働きかけまでは至っていないものの、主に郵送や電話また窓口対応にて生活状況の聞き取りや償還に対する一定の相談支援は実施できている。					

現在の課題	相談対応のできる職員が限られており、相談件数がコロナ禍複雑化した相談ケースへの対応が困難となっている。また、特例貸付を機に外国人の方々も本会と繋がる機会が増えたが、一方で日本語ができない方も多く、意思疎通を図るうえで苦慮している。
今後の取組方針	短期的な取り組みとして、増加する外国人相談者への対応策の検討。 中期的な取り組みとして、相談対応のできる職員の育成による組織体制の強化。

今後の事業スケジュール	R7年度	多言語対応可能なツールの導入、他機関との連携。
	R8年度	社協内外の研修を通じた人材育成。
	R9年度	継続実施。